

## Xバンドレーダーの京丹後市経ヶ岬への配備について

### 前窪義由紀（日本共産党・宇治市及び久御山町）

【前窪】Xバンドレーダーの京丹後市経ヶ岬への配備についてお聞きします。

在日米軍は、米軍の再編ロードマップに沿ってXバンドレーダーを日本に配備している。2006年6月に青森県つがる市の自衛隊車力基地にXバンドレーダーを配備し、現在運用を開始している。国内2番目の基地ということで、経ヶ岬に配備しようとしているが、まずは、防衛省事務次官が2月26日に京丹後市役所を直接訪問し、市長に協力要請をしたということです。それから、本府にも地方調整課長が来られて協力要請をしたということだが、経過と協力要請された内容についてお答え下さい。

【西村総務部理事】24日に新聞報道がされ、26日の午前中に京丹後市長を訪問し説明に行く、については昼からでもいいので京都府の方にも事務的にお話をさせていただきたいという連絡がありました。そういった関係で26日の午後に私どもの方で事務的なお話をさせていただきました。

お話しされた内容については、Xバンドレーダーの物はこういう物ですよという話と、京丹後市長と事務次官とのやりとりの内容を説明されたものです。その際に、私どもとしては、確認事項ということで、住民への健康上どうなのか、今後の事務日程はどうなのかといった6項目の内容について地方調整課長さんにお渡ししたという経過です。

【前窪】総務部理事の西村さん名で調整課長さんに6項目出されたと言うわけですが、これは単なる事務的な要望事項ということではなくて、私はこの段階では少なくとも知事のレベルで防衛省に対してしっかり申し入れていく必要があると思うが、そういう姿勢はまだないでしょうか。

【西村総務部理事】議会中ということもございましたので知事とも調整をする中で文書という形でしっかりと要請させていただいたものです。

【前窪】今後、どういう形で連絡調整していくのかということですが、まずはどういう施設が設置されることになるのか、置かれる米軍の規模はどの様に把握されているのでしょうか。

【西村総務部理事】弾道ミサイルを探知する追尾するレーダーとそれを動かす、自家発電しますので、自家発電装置、重油装置、それとそのレーダーを管理する管理棟といったものが置かれると聞いています。

国内2例目の例であり、「青森県の津軽市の車力の例で」という話ではございましたが、2班編成で1班50名の体制で総計100名程度。その内、米国軍人と言われているのは数名。残りの50名程度は機械を動かすためのシステムエンジニア。残りの50名程度が警備に当たるものが来る。併せて家族も来るところもあり、津軽の例では150名程度の方が来られる。その居住場所としては、地区外にアメリカの方で住居、マンション建てられて住んでおられるという状況であると説明を受けました。

【前窪】報道によると既存の自衛隊基地では狭いということで、新たに周辺用地を取得する必要があると。その場合、京都府行政との関係でいえば、開発関係の許認可、あるいは環境や住民生活への影響、レーザーの性能による様々な電波障害、漁業、農林業等、周辺に対する影響、さらには航空機の空域問題、本府も運営しているドクターヘリの運航に支障がでると、こういうことがあるのか、ないのか。そういったことを含めて問題が出てくると思うが、現時点で京都府行政との関係でどういう問題が起こってくるのか。この点についてお答えください。

【西村総務部理事】その時のお話では、別途数ヘクタールの用地を買収するということでした。ただ、

場所がどこなのかということが特定できておりませんので、その部分について京都府の許認可と申しますか、関わりがどの程度あるのかということは現在調べておりません。

【前窪】その他私が例示した内容についての問題点はどのようにでしょうか。

【西村総務部理事】場所等がはっきりしてきたら当然京都府としてやることはきちんと対応させていただきます。

【前窪】では、防衛省はこの施設をいつまでに配備するという方向で進んでいるのか。その辺の状況把握はどうでしょうか。

【西村総務部理事】返答がまだでございますので、今後、京丹後市長の方からも早急に地元の方に説明して下さいというような要請がなされておりますので、事務日程等については把握しておりません。

【前窪】この点は早く把握をしていただくようお願いしたい。

今回の配備問題も安倍総理が訪米してオバマ大統領との会談の中でこういう問題が確認されるというようなことでありますので、頭ごなしに押しつけられることになってはダメだと思うのです。既に京都府に対して、事務方であっても来ているわけですから、その辺のことはしっかり把握してほしいと思うのですが、この点については強く求めておきたいと思っております。

それから、環境アセスメントを含めた作業があると思う。これは位置が多少ずれたとしても、いずれにしても経ヶ岬上で設営されるということですから、これは必要だと思うが、この点についてはいかがですか。

【西村総務部理事】その点の説明はございませんでしたので、把握はしておりません。

【前窪】それでは西村理事、6点どういふことを強調して求めたのですか。それに対して相手側は誠実に答えるということを持って帰ったのですか。

【西村総務部理事】6項目を確認事項として手交させていただきました。1点目については、レーダーが強力な電磁波と聞いていますので、周辺住民等への健康上問題はないのか、2点目が、道路管理上ですとか道路交通上の安全確保をどう考えているのか、立ち入り規制等によって住民生活に影響を与えないのかどうか。3点目が、風評被害等による農作物の影響ですとか、地域振興、観光振興についてどう考えているのか。4つ目が、管理運営のために人員が配備される十数名程度で来るというふうにきいているが、どこにどんな関係者の方が来られるのか。その関係者の方がどこに住まれるのか。治安維持対策はどうされるのか。6点目が今後の住民なり府民への説明はどの様に行われるのかということを確認事項として要望させていただきました。これについてはきっちりと回答していただけるものと思っております。

【前窪】2006年の青森県のこのレーダー配備の時には、県は有識者等を入れる検討会をもって、その答申を受けてOKを出したという形になってはいますが、この有識者の中に防衛庁と自衛隊幹部のOB2人、それからこのレーダーに関わっている三菱重工の企業の方が1人ということで、こういう方がメンバーに入ってそして問題なしというそういう答申をした。京都府がOKだすか出さないかという問題についてこんなような第三者の検討会つくるというような形で容認していくと、いうことになってはならないと思っておりますが、これについて副知事今後の対応の仕方について答弁願いたい。

【山内副知事】いま理事のほうからお答えいたしましたように、要は事務的なご説明をまず聞かしていただいて、これはある意味寝耳に水と申しますか、頭ごなしに聞いていいでしょうか、ないとは思いませんのでそういうところについてきちっと地元の意向を大事にしながらかご説明をいただきたい、ゆうよ

うに基本的には思っております。で、そのためにも、事務的な話をきちっと聞かしていただいて、そういったものを踏まえつつどうしていくかということがこれからの課題だろうと思いますので、これは地元のご意向を踏まえつつやらないとこういったものは前にいかないとおもいます。京丹後市さんとも十分に連携をしながら調整をしてみることが必要なのではないかと考えている次第であります。

**【前窪】**そもそも X バンドレーダーというのは日本防衛というか日本を守るということで配備されるものではけっしてないわけです。目的は米国本土の防衛だ。相手国とされる国はこういうレーダー設置しているところは、第一の攻撃目標になるとこういう風に言っています。従って、いわゆる日本の憲法 9 条の下での日米の防衛の在り方と、アメリカの戦略のなかで自衛隊が出動していくという、こういうことについては絶対に容認できない。レーダー設置について絶対に容認することがあってはならないと、強く求めておきたいと思えます。